

令和4年度
事業報告

社会福祉法人 博愛会

ハ一モ二一松葉

目 次

I. 法人事業報告

- 1. 令和4年度総括..... 2
- 2. 令和4年度の重点的な取り組み..... 3
- 3. 運営..... 4

II. サービス事業別報告

- 1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉..... 13
- 2. 老人デイサービスセンター ハーモニー松葉..... 22
- 3. 介護予防体操教室事業..... 32

I. 法人事業報告

1. 令和4年度総括

令和4年度、法人経営に影響を与えた点について報告する。

財務面では、第1に9月以降に顕著になった物価高騰によるコスト増があげられる。電気代が前年比1か月あたり平均113千円の増加、ガス代は1か月あたり平均19千円の増加となった。令和5年度は令和4年度の基本単価の約50%の増加が試算されている。第2に3月中に発生した職員間の新型コロナウイルス感染の流行による収入減である。デイサービス事業の4日間の休業により見込み収入の900千円の減少となった。第3に入居待機者が少ないためにケアハウス稼働率が94.2%まで減少し、見込み収入の約1700千円の減少となった。第4にデイサービス利用者が増え、前年度比1日あたり3.8名増加の27.3名となり、収入が6700千円増加した。法人全体の経常増減差額率は△0.2%（前年対比3.2%の減少）となった。

人事・組織面では、デイサービスが令和5年1月から新体制となり、新人職員が増えた。しかし、現利用者数に対する職員数は充足し、約3か月間でオペレーションはおおむね安定した。3月のクラスター発生時には、人員不足により、非陽性者の職員に一時的に大きく負荷がかかった。自然災害や感染症発生時などの緊急時の職員不足は今後も課題として挙げられる。また、退職により欠員が生じたときの応募が少ないという業界の人材不足の状況は続いており、いかに良い人材を採用して、育成し、確保するかという点も今後の課題である。ICT化の観点では、ラインワークスを情報伝達のツールとして導入し、職員間の情報共有がタイムリーに行えるようになった。法人全体の目標から各事業が目標を設定して、事業毎に自ら目標管理を行うことで、エンパワメントを活用できるようになった。

サービス面では、コロナ禍でも法人としてできることを実施していくという考えのもと施設運営を行った。ケアハウス事業では、ゲーム・公園ウォーキング・流しそうめん・園芸などのイベントの復活や談話室を間仕切りにより利用を促すなど入居者間の交流の機会を増やした。デイサービス事業では、感染予防を留意しながらボランティアを受け入れることで、押し花、生け花、マジック等、午後のアクティビティが増え、利用者のニーズに沿ったサービスを提供できた。

2. 令和4年度の重点的な取り組み

(1) 経営基盤の強化

① 経営理念、経営ビジョンの周知

- ・ 営理念・ビジョンを明文化できておらず、職員に周知できていない課題に対し、経営理念の周知について、掲示物や各会議で実施した。

②健全経営に向けた経営目標・指針の達成

- ・ 役職者間で経営状況の共有をおこなったが、各部門で自部門の財務把握までは至らなかった。各部門で理念・ビジョンを盛り込んだ事業計画の策定は実施できた。
- ・ 職員の経営、運営意識を高め、経営・運営状況を共有するため、役職者が出席する法人運営会議を開催した。部門毎で業績評価指標（KPI）を定め、達成度の報告を実施した。

③事業活動収支で積立資金を生み出せる事業内容への見直し

- ・ ケアマネージャーへの空き情報の提供や柔軟な受け入れ調整等による営業活動により稼働率が上昇した。
- ・ ケアハウスの稼働率が計画を下回った。

④組織体制の整備

- ・ 各部門間の業務量に差があり、職員の業務負担量に偏りがある課題に対し、職員配置方針や役割分担の見直しを行った。
- ・ デイサービス生活相談員について、業務量の見直しのため、非正規の生活相談員を含む計2名体制とした。

⑤広報活動の充実

- ・ ケアハウス入居者の待機者が確保できているが、自立度の高い待機者が少ないという課題に対し、パンフレット配布、SNSの活用を行った。ホームページを10年ぶりに更新し、SNSは令和5年1月にホームページのブログへ移行した。

⑥緊急事態へ対応できる体制づくり

- ・ 令和6年3月までに事業継続計画（BCP）を策定の義務化に向け、プロジェクトチームを立ち上げ、BCP策定に取り組んだ。

⑦ICT化の充実

- ・ ICT化が遅れ、業務が非効率となっている課題に対し、ラインワークスを活用し、法人全体・部門間の情報共有や情報伝達ができた。

⑧部門間、部門内の連携強化

- ・部門間の連携不足の課題に対し、事業計画に法人全体行事を入れて自部門で行うという意識付けを行った。
- ・デイ部門間での連携不足の課題に対しては、ラインワークスの活用により情報共有が正規職員・非正規職員間で行われ、コミュニケーションがとりやすくなった。

(2) 人材育成・人材確保・職場環境の整備

① 人材育成

- ・中途採用が多く育成をする制度が確立されてこなかった課題に対し、制度の見直し検討を行うことができなかった。
- ・プリセプターの指導力のばらつきの課題に対し、プリセプターへの教育を随時行った。
- ・認知症と介護度が高い利用者への対応が困難な場合がある課題に対し、スタッフの外部研修受講を予定していたが、コロナ禍で研修が少なく参加できなかった。
- ・正規職員だけでなく、経験値が上がってきた非正規職員が新人職員指導に関わった。

② 人材確保

- ・求人に対する応募数が少ない課題に対し、稲城市医師会と連携し、看護師の見学者が増加した。

(3) 地域福祉の推進

① 地域と共存する施設の構築

- ・コロナ禍で法人と地域住民との接点が減っている課題があるが、感染拡大予防のため、地域を巻き込んだ行事は実施しなかった。ボランティアの受け入れについては、人数制限をしながら行った。

3. 運営

(1) 理事会・監事・評議員会について

- ・理事会は定款に基づき、年3回開催し、理事6名(表1)の決議による業務執行の意思決定を行った。理事長の職務執行状況の報告は4カ月を超える間隔で2回行った(表2)。
- ・評議員会は定款に基づき、定時評議員会を年1回開催した(表3)。定時評議員会では評議員7名(表1)の決議による業務・経営組織の事後的な監督を行った。
- ・監事は定款に基づき、監事監査および理事会・評議員会に計5回出席し業務執行の監査と監査報告を行った。令和4年5月10日(火)に当法人の監事による令和3年度事業

報告及び決算諸表の監査を実施した。

表1 役員、評議員、評議員選任・解任委員（令和4年4月1日現在）

役職	定数	氏名
理事	6	城所正彦（理事長）、角田等、宮澤秀弘、淵上宏美、吉野貴美子、青木正文
監事	2	河村保正、木村重樹
評議員	7	鹿島正二、笹久保博子、今泉浩史、西畑博仁、角田政信、佐藤久美子、種田匡延
評議員選任・解任委員	3	角田享（外部委員）、木村重樹（監事）、浅利洋平（事務局）

表2 理事会開催日程と案件について

回	実施年月日	理事出席数	監事出席数	主要な付議案件	審議結果
1	5月25日	6	2	第1号議案 令和3年度事業報告について 第2号議案 令和3年度決算報告について 第3号議案 就業規則の一部改正について 第4号議案 非常勤職員就業規則の一部改正について 第5号議案 令和4年度定時評議員会招集決議について	可決 可決 可決 可決 可決
3	10月25日	5	2	第6号議案 情報公開規程の一部改正について 第7号議案 経理規程の一部改正について 第8号議案 ケアハウス重要事項説明書の一部改正について 第9号議案 ケアハウス運営規程の一部改正について 第10号議案 就業規則の一部改正について 第11号議案 給与・退職・旅費規程の一部改正について 報告 理事長の職務執行状況について	可決 可決 可決 可決 可決 可決
3	3月22日	6	2	第12号議案 令和4年度補正予算について 第13号議案 令和5年度事業計画について 第14号議案 令和5年度当初予算について 第15号議案 給食業務委託契約について 第16号議案 苦情解決第三者委員の選任について 報告 理事長の職務執行状況について	可決 可決 可決 可決 可決

表3 評議員会開催日程と案件について

	実施年月日	評議員出席数	監事出席数	主要な付議案件	審議結果

定時	6月 14日	7	2	第1号議案 令和3年度事業報告の承認について 第2号議案 令和3年度決算報告書の承認について	可決 可決
----	-----------	---	---	---	----------

(2) 人事制度・組織デザイン

①採用

- ・中途採用で欠員募集を行った（表4）。

表4 採用及び退職状況（令和4年度中）

部門	採用		退職	
	ケアハウス	デイサービス	ケアハウス	デイサービス
正規職員	0名	1名※1	0名	1名※2
非正規職員	3名※3	7名※4	4名※5	6名※6
合計	3名	8名	4名	7名

※1 生活相談員1名 ※2 生活相談員1名 ※3 清掃員2名、宿直員1名

※4 介護職員6名、運転手1名 ※5 事務員1名、清掃員1名、宿直員1名、介護職員1名

※6 介護職員5名、運転手1名

②配置

- ・各事業を適切に運営するため、職員配置を行った（表5）。

表5 部門別職員配置状況（令和5年3月31日現在）

*ケアハウス部門（実人員）

	正規職員	非正規職員
施設長	1名（兼務1名）	
生活相談員	1名	
介護職員	1名	
事務員	1名	1名
用務員		5名（兼務3名）
宿直員		5名（兼務3名）
合計	4名	8名

※施設長はデイサービス管理者を兼務している。

*デイサービス部門（実人員）

	正規職員	非正規職員
施設長	1名（兼務1名）	
生活相談員	2名（兼務2名）	
看護師		3名

介護職員	3名（兼務2名）	7名
運転手		7名
合計	3名	17名

※施設長はケアハウス管理者を兼務している。

※令和4年度は介護予防体操教室事業を実施しなかったため、介護予防運動指導員、介護予防補助指導員の配置なし。

・資格等の取得状況 ※複数の資格をもつ職員がいる（令和5年3月31日現在）

介護福祉士	9名
看護師・准看護師	3名
理学療法士	1名
介護職員実務者研修修了者	2名
介護職員初任者研修修了者	4名
福祉用具専門相談員	1名
社会福祉主事任用	3名

③評価

・法人規程で定めた人事評価制度により人事評価を年2回全職員に対して実施した。

④育成

・新規採用職員に対し、新入職時研修と中堅職員を教育係としたプリセプター制度でのOJTを行い、業務の円滑な引き継ぎと段階的な教育・指導を行った（表6）。

・未経験で入職された職員に介護職員初任者研修を取得するための資格取得支援費を支給した（表6）。

表6 職員への育成実績（令和5年3月31日現在）

内容	対象人数
プリセプター制度での新人教育	7名（内デイサービス介護職員運転手6名、運転手1名）
国家資格等の取得支援	1名

・専門的知識および技術能力の向上と時流に即したサービス向上を図るため、内部研修会及び外部研修会に参加した（表7、表8）。

表7 令和4年度 内部研修会実施一覧

日程	研修名	実施者	参加職員数
4月9日	令和4年度 倫理・マナー研修	施設長	24名
5月14日	介護技術研修	デイサービス介護職員	16名

6月11日	第1回感染症研修 「夏に向けての感染対策」「食中毒」「熱中症」	感染症委員	16名
9月10日	労務研修「有給休暇の習得方法について」	ケアハウス事務員	19名
9月10日	第1回身体拘束適正化研修	身体的拘束適正化委員	13名
10月8日	第2回感染症研修 「インフルエンザとノロウイルス・嘔吐物処理研修」	感染症委員	17名
11月27日	救命講習（普通救命講習Ⅰ）	事故予防委員	18名
1月14日	第2回身体的拘束適正化研修 「身体拘束について」	身体的拘束適正化委員	13名
3月11日	リスクマネジメント	事故予防委員	14名

※東京都軽費老人ホームの運営の基準に関する条例で定められている通り、感染症研修を年2回、身体的拘束適正化研修を年2回・事故予防研修を年2回実施した。普通救命講習受講により普通救命資格を18名が取得した。

表8 令和4年度 外部研修参加一覧

日程	研修名・委員会名	開催方法	主催者	参加者
5月11日	第1回 はじめての社会福祉を学ぶ 福祉職員のためのスタートアップ研修	オンライン	東京都社会福祉協議会	事務員
7月5日	感染拡大予防に関するオンライン研修	オンライン	東京都	介護職員
7月25日	令和4年度労働基準法等に関する研修	オンライン	東京都社会福祉協議会	事務員・施設長
オンライン 8月29日	都内子ども食堂関係者向け学習会「子ども食堂と『ひと』の話」	オンライン	東京ボランティア・市民活動センター	事務員
9月5日	社会福祉法人にとってのインボイス制度・電子帳簿保存法	オンライン	東京都社会福祉協議会	事務員・施設長
9月24日	介護施設における安全対策担当者養成研修	オンライン	全国老人福祉施設協議会	生活相談員
12月8日	東京都高齢者施設等BCP策定支援事業「自然災害BCP策定講座」	オンライン	MS&ADインターリスク総研	生活相談員
12月13日	緊急企画「感染第7波の振り返りから第8波の感染拡大防	オンライン	東京都福祉保健局	介護職員

	止を目指して」			
1月12日	第3回採用担当者研修・情報交換会	オンライン	東京都社会福祉協議会	施設長
1月30日	組織をよりよくするための環境づくり研修	オンライン	公益財団法人東京都福祉保健財団	施設長

(3) 広報活動の充実

- ・自立度の高い入居待機者が少ないという課題に対し、稲城市内の住宅地へパンフレット配布を行った。求人への応募が少なく人材不足の課題に対し、ホームページをリニューアルし、訴求力を高めた。外部に対する情報発信力が足りないため、広報を担う担当者を設置した。

(4) 施設設備の保守・修繕

- ・設備の老朽化による突発的な修繕を実施できるように計画的に整備を行なった（表9）。

表9 実施した施設・設備整備

日程	実施内容	整備理由
6月6日	デイサービス用足温器 1台	サービス向上のため
7月7日	入居者居室エアコン1台	故障による入れ替えのため
10月11日	談話室用マッサージチェア2台	サービス向上のため
10月31日	食器消毒保管庫 1台	経年劣化による入れ替えのため
11月19日	テイルーム舞台の畳替え	経年劣化による入れ替えのため
12月8日	ノートパソコン 3台	既存のパソコンの劣化のため
12月23日	防犯カメラ 1台	入居者の見守り・防犯のため

- ・修繕は、車輛の修理2件、居室内設備2件（内退去時2件）、共有部設備3件であった。いずれも経年劣化による不具合であった（表10）。

表10 実施した施設設備の修繕（100千円以上の費用計上を記載）

日程	実施内容	業者
7月5日	車輛修理代（車内エアコン）	日産東京販売
7月19日	退去時居室内修繕	ワールドシステムズ
10月5日	退去時居室内修繕	ワールドシステムズ
10月31日	昇降機・給気ファン修繕	大石建設
12月21日	循環ろ過装置ポンプ修繕	タルヤ設備
12月21日	循環ろ過装置修繕	タルヤ設備
1月19日	車両修理代（エンジン）	日産東京販売

車輛：2件、居室内設備：2件(内退居時2件)、共有部設備：3件

(5) 外部委員会及び会議への出席について（表 11）

- ・東京都高齢者福祉施設協議会が主催の軽費分科会、新時代の高齢者福祉デザイン検討委員会、人材育成研修委員会に出席し、他法人の委員と事業運営や東京都の福祉の課題、人材育成等について情報交換を行った。
- ・施設長は、稲城市主催の稲城市高齢者施設長会へ出席し、稲城市との情報共有、他施設の施設長と施設運営面での課題について情報交換を行った。
- ・生活相談員は軽費分科会の生活相談連絡会に出席し、意見交換を行った。

表 11 令和4年度 委員会・外部会議参加一覧

日程	研修名・委員会名	開催方法	主催者	参加者
4月22日	第1回 軽費分科会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
6月3日	第1回 稲城市高齢者施設長会	実地	稲城市	施設長
7月2日	人材育成研修委員会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
7月22日	第2回 軽費分科会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
10月11日	人材育成研修委員会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
12月7日	第2回 稲城市高齢者施設長会	実地	稲城市	施設長
12月16日	第4回 軽費分科会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
12月20日	軽費分科会 生活相談連絡会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	生活相談員
2月15日	人材育成研修委員会	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長
3月29日	軽費分科会 打ち合わせ	オンライン	東京都高齢者福祉施設協議会	施設長

※委員会は、コロナ禍のためオンラインの開催であった。

(6) 職員会議について

- ・職員会議は毎月1回実施。法人内の情報及び課題について共有・協議を行い適切な部署運営に努めた。

※各部署の会議はサービス事業別の報告に記載

(7) 事故予防、感染症予防及び身体拘束適正化委員会について

- ・法令に則り、指針に沿って開催し、リスクマネジメントや感染症予防対策、身体拘束・高齢者虐待について対応を委員会内で協議し、意思決定を行った。特に感染症予防委員会については、新型コロナウイルス感染状況が変化するなかで、臨時委員会を招集し、施設としての対応を随時決定した（詳細は P.20⑤委員会の結果に記載）。

(8) 地域貢献・地域交流

① やのくち子ども食堂

- ・毎月1回 子ども食堂を開催し、お弁当を施設まで来てもらう形でお弁当を提供した。来所が難しいご家庭には民生児童委員がお届けする形で提供した（表 12）。

表 12 やのくち子ども食堂開催実績

日程	参加人数
4月27日	12名
5月25日	13名
6月22日	13名
7月27日	15名
8月24日	12名
9月28日	16名
10月26日	15名
11月23日	16名
12月28日	13名
1月25日	16名
2月22日	16名
3月22日	16名
平均	12.1名

② つながろう矢野口会議（稲城市支援体制整備事業の第2層協議体）

- ・2層協議体（民生委員・寿会・介護予防自主グループ・ふれあいセンター・支え合うみのりサポートセンター・地域の方々）で地域課題・地域の強みを出し合い、自然な形でつながりあう矢野口の姿を目標とする。新しい会則の承認やフォーラム開催の準備・振り返りを主な議題とした（表 13）。

表 13 つながろう矢野口の日程及び内容

日程	内容	参加者
6月13日 （第2回）	・代表より、会則・役員の承認、フォーラム開催・今年度の取り組み等について、報告	施設長
11月5日	第4回 我がごと・地域まるごと街づくり	施設長、

	フォーラム in 矢野口 2022	入居者3名
3月16日 (第3回)	・報告、フォーラムの振り返り、来年度の 方針、その他	施設長

(9) 安全管理

- ・業者による防災設備の定期点検と職員による施設内設備の自主点検を実施した(表14)。
- ・消防計画に従って総合防災訓練・自主避難訓練を実施した(詳細はケアハウス事業報告に記載)

表14 実施した定期点検(保守契約内)

日程	内容	業者
6月30日	消防用設備等保守点検(年1回)	大石建設(株)
常時	昇降機 遠隔監視メンテナンス	ジャパンエレベーター サービスグループ
5月12日、8月4日、 10月20日、10月 26日、2月9日	昇降機設備 保守	ジャパンエレベーター サービスグループ
4月5日、8月3日、 10月3日、11月10 日、12月5日	電気工作物月次点検	小野家電気管理事務所

(10) 法人借入金償還状況について

(単位：千円)

借入先	当初借入額	償還済額	当期減	借入残額	用途
(独)福祉医療機構	20,000	0	0	20,000	経営資金

※元金のみ記載している。20,000千円の借入について、令和2年10月に借入れ、令和7年から償還開始、令和12年で完済予定。貸付利息 0.250%。毎回元金均等償還額 327千円

Ⅱ. サービス事業別報告

1. 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉

《重点的取り組み》

(1) 入居者処遇

① 食事サービスの充実

<目標>

- ・ 食事は入居者の健康保持及び増進、疾病予防のために欠かせないものであり、さらに生活上の楽しみのひとつとして関心の高い事柄でもある。食事は入居者の QOL を高めるためにも必要な要素であるため、健康増進及び食事に対する満足度の向上を目的に食事サービスの充実を図る。
- ・ 季節にちなんだ行事食(お花見弁当、夏祭り屋台料理、敬老祝い膳、クリスマスディナー、おせち料理等)、特別食(刺身食、誕生日食等)や企画食(外食ツアー、流しソーメン、秋の味覚祭り(さんま)、焼き芋会、餅つき(お汁粉)、ブリの会)など多様な食事を提供することで食べる楽しみを感じてもらう。

<結果>

表 15 実施した食事サービス

月	行事食	特別食
4月	お花見弁当	
5月		お祝い膳(3月～5月の誕生日)26食
6月		
7月	流しソーメン 8食	
8月	夏祭り(屋台料理)	お祝い膳(6月～8月の誕生日)27食
9月	敬老のお祝い膳	
10月	秋の味覚祭 (さんま 芋煮汁) 23食	
11月	焼き芋 16食 餅つき(お汁粉)	お祝い膳(9月～11月の誕生日)26食 刺身食 (15食)
12月	クリスマスディナー お汁粉 21食	刺身食 (16食)
1月	お雑煮・おせち (1/1朝昼)	刺身食 (17食)
2月		お祝い膳(12月～2月の誕生日)25食 刺身食 (20食)
3月		刺身食 (16食)

- ・ 刺身食(冬季 11月～3月) 計 84食提供。
- ・ 誕生日食(3ヵ月に1回開催) 計 80食 日曜日の昼食にて提供。
- ・ 秋の味覚祭 10/14に昼食として焼きサンマを 23食提供。

※外食ツアー、ブリの解体ショーは感染状況が落ち着かず感染予防の観点で未実施。

<目標>

- 通常の食事(朝・昼・夕)に加えてアラカルトメニュー(有料)を提供し、入居者に好きな物を追加で自由に選んで食してもらうことで食事の満足度の向上を図る。

<結果>

- 延べ 1263 食、1 日あたり 3.5 食の利用があった。

②介護予防

<目標>

- 施設での自立生活の継続には心身機能の維持・向上が必要であり、介護予防的支援が必要となってくる。そのため、入居者の運動不足の解消と健康増進を目的に運動機会を定期的に設け、心身機能の低下予防に繋がるよう努めていく。

<結果>

- 軽体操：週1回 延べ 356 人の参加（1 回あたり 7.27 人）
- ウォーキング：週1回 ※月1回は施設周辺のゴミ拾いを行う
延べ 189 名の参加（1 回あたり 5.3 名） うち、6月7名、8月4名、10月5名、11月5名、12月5名、1月7名の計6回延べ33名がゴミ拾いに参加。
- 公園ウォーキング：月1回 施設近隣の公園まで外出。令和4年4月、7月、9月の3回実施、延べ 14 名の参加（1 回あたり 4.67 名）
- ラジオ体操：毎日 令和3年3月より実施。館内放送でラジオ体操を流す形のため、参加人数は不明であるが、毎回3~4名程度の入居者が廊下に出て体操を行っていた。（居室内で参加している入居者もあり）

③レクリエーション

<目標>

- 「楽しみ」のある施設生活を送ることができるよう、各種レクリエーションを余暇活動として提供し、入居者間の交流促進と気晴らしを目的に余暇活動の機会として各種レクリエーションを提供する。

<結果>

- 映画鑑賞会：月1~2回 延べ 189 名が参加（1 回あたり 7.9 名）
- 壁面飾り(七夕、納涼祭、ハロウィン、クリスマス)：
 - 七夕：6/19、26の2日間、延べ25名参加。
 - 夏祭り飾り：7/24、31の2日間、延べ29名参加。
 - ハロウィン飾り：10/23、8名参加
 - Xmas 飾り：11/20、10名参加。
- ゲーム
令和4年6月、7月、8月、9月の計4回延33名が参加（1 回あたり 8.25 名）

・ドライブ

花見ドライブ：4/15、4名参加。

紫陽花ドライブ：6/14、4名参加。

紅葉ドライブ：11/4、7名参加。

梅見ドライブ：2月 中止

・園芸(野菜作り)

令和4年5月にイチゴ収穫6名、8月にプチトマト収穫に4名、3月にのらぼう収穫に6名が参加

④季節行事・外出活動

<目標>

- ・施設生活はともすれば単調になりがちであるため、季節にちなんだ行事を定期的で開催し季節感を感じてもらおう。また、外出支援の一環として外出活動を企画し、入居者同士が楽しく交流できる機会を設ける。

<結果>

表 16 季節行事の開催

実施日	内容	参加人数
7月28日	花火大会	20名
8月28日	夏祭り	27名
9月18日	敬老会	28名
12月25日	クリスマスディナー	27名
1月1日	新年会	23名
1月3日	正月遊び	13名
1月6日	初詣(穴澤天神)	7名
2月3日	節分会	11名
3月19日	茶会	6名

※外食ツアー(2ヶ月に1回予定)は、感染状況が落ち着かず未実施。

⑤地域交流・社会参加

<目標>

- ・地域社会との関わりは入居者の地域における役割の創出に繋がり、生きがいや励みになるため、自立支援と介護予防を目的に地域交流・社会貢献活動の場に参加していく。

<結果>

- ・地域行事への参加(防災訓練、文化センター作品展、地域のお祭り等)：
11/5に矢野ロフォーラムへ施設長引率で入居者3名が参加。

- ・地域貢献活動への参加(やのくち子ども食堂)：延べ 179 食を提供、1 回の開催につき 15 食を提供した。今年度も感染予防のため入居者は弁当の掛け紙にメッセージを書き、間接的な交流を図る形を継続。
- ・地域の社会資源の活用(エイトピア工房の菓子、そら café のクレープ等の施設内での販売)：4 月～5 月はコロナ第 6 派流行直後であったため大事をとり中止、その他の月は 1 回の頻度で開催し計 10 回開催した。
そら café クレープ 月 1 回の頻度で計 12 回開催。

⑥健康管理

<目標>

- ・入居者の健康状態の把握及び疾病の早期発見のため、健康相談の機会を設け入居者の健康管理を行なう。

<結果>

- ・看護師による健康相談日を月 2 回設け入居者の健康管理に努める：4 月～8 月はコロナ感染状況が拡大のため月 1 回の開催に縮小。以降は月 2 回程度開催、月平均 10～12 名の参加があった。
- ・歯科検診を年 1 回行い入居者の口腔内の健康及び衛生保持に繋げる。：3 月実施を予定していたが、感染状況が落ち着かず中止。
- ・入居者健康診断を年 1 回行ない、健康維持と疾病の早期発見に繋げる。：令和 5 年 2/17 に京映会にて実施。入居者 25 名が受診 ※未受診者はかかりつけ医療機関で各自実施済。
- ・感染症の予防のためインフルエンザの予防接種を行なう(毎年 11 月頃予定)。：かじわらクリニックへ依頼し、インフルエンザ予防接種 11/14 に実施。入居者 26 名が接種。
東京都のワクチンバスを利用、新型コロナウイルスワクチン 4 回目 8/2 に 23 名、5 回目 12/8、23 名が接種。入居者全員が接種済。(施設外で接種した入居者含む)

⑦苦情解決・相談

<目標>

- ・苦情解決委員会を設置し、苦情の早期解決及び予防対策を講じる。
- ・意見箱を設置し、ご入居者からの個別の意見や要望を聞き取り不満解消や改善に繋げる。
- ・満足度調査を年 1 回行ない、ご入居者のニーズを把握し、施設運営に反映させる。
- ・家族・保証人会を年 1 回(9 月頃)開催し、運営面の理解や緊急時の対応等の協力を得られるよう努め、職員と保証人間の連携を深める。
※家族・保証人会の開催についてはコロナ感染状況・情勢により判断する。

<結果>

- ・令和 5 年 3/16 に委員会開催。苦情申し立て(0 件)や意見箱に寄せられた意見(について 3 件)、アンケート結果等について委員へ報告を行った。
- ・令和 4 年度の意見箱への意見は計 3 件寄せられた。いずれも食事に関する要望であった

ため食事会議にてレパスト職員へ報告、改善を依頼した。

- ・満足度調査を12月に実施。1月の懇談会にて集計結果について報告を行った。運営に係る意見については次年度の事業計画へ反映させた。
- ・家族・保証人会の開催を計画していたが、コロナ禍のため対面での保証人会は見送り、3月に予定したが職員間でコロナ感染者が複数出たこともあり延期。※特例的に年度をまたぎ4月～5月頃に開催予定。

⑧環境整備

<目標>

- ・衛生保持のため、各種検査及び清掃を定期的を実施する。
レジオネラ検査年2回 水質検査年1回 受水槽清掃年1回 排水管清掃年1回
害虫駆除年2回 ワックス清掃年1回 ろ過機ろ材交換5年に1回(前年度実施済)

<結果>

表 17 実施した各種検査及び清掃

日程	内容	頻度	業者
9月29日 3月30日	レジオネラ検査	年2回	一般財団法人東京顕微鏡院
9月29日	水質検査	年1回	一般財団法人東京顕微鏡院
1月31日	受水槽清掃	年1回	(有)タルヤ設備工業所
4月14日	排水管清掃(厨房内の排水管清掃)	年1回	株水研社
6月14日 12月2日	害虫駆除(樹木及び厨房の害虫駆除)	年2回	株京王消毒
12月29日	ワックス清掃	年1回	(有)ス°-ツァンダ ミリス

<目標>

- ・施設中庭及び建物内の保全と管理を行ない施設美化に努める。
- ・中庭植木の剪定 施設内及びベランダ通路の清掃
- ・談話室と廊下を区分けし、入居者が居心地の良い空間に整備する。

<結果>

- ・用務員により中庭植木剪定(春、秋)及び雑草除去(月1回)を実施。
ベランダ及び非常階段、網戸の高圧洗浄清掃を5月、6月に実施。
各居室のエアコンフィルター清掃6月、10月に実施。
- ・10月より談話室と廊下の仕切りのためパーテーションを設置し、健康器具を東京募金会の助成金を活用して購入・設置した。

(2)施設運営

①入居稼働率の維持・向上

<目標>

- ・ケアハウス入居稼働率 99.3%を目指す。
- ・4 年度 30 人以上の待機登録者を確保する。
- ・待機者確保のため軽費老人ホームのパンフレットや広報誌を活用し近隣地方公共団体の高齢福祉担当者や包括支援センターに営業を積極的に行う。また他施設と連携し、待機者の斡旋や紹介を受けられるよう取組む。

<結果>

- ・入居稼働率 94.2%で目標値には届かず。4 名の退所があり入所を手配したが 3 名の入居に留まった。コロナ禍の影響で入居の辞退や保留とする待機者が多かったこと、居室設備に不具合があり修繕のため入居手配が停滞したことが原因（表 18）。
- ・待機者は 26 名で目標値には届かず。今年度は 14 名の見学があったが、待機登録となったのは 5 名。また、年度内に 4 件の入退所があり、待機者から 3 名が入居となったことで待機者数が減少したことも未達成の要因となっている。
- ・施設の近隣の公団公営住宅、医療機関及び包括支援センターへ広報誌やパンフレットを配布、見学希望者を随時受け入れ待機者の確保に繋がるよう努めた。

表 18 年間入退所状況（令和5年3月31日現在）

単位：名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
入居者数	29	30	30	29	29	28	28	27	27	27	27	28	339	28.3
新規入居者数	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	0.3
入居理由	老後の安定のため												0	
	住宅事情	1											1	
	家庭事情												0	
	経済事情												0	
	本人の希望		1						1			1	3	0.3
	その他												0	
退去者数	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4	0.3
退去理由	老人ホームへ転所												0	
	病院への入院				1								1	0.1
	家庭引き取り												0	
	死亡												0	
	その他						1		1	1			3	0.3
空室状況	1	0	0	1	1	2	2	3	3	3	3	2	21	1.8
入居率	96.7%	100.0%	100.0%	96.7%	96.7%	93.3%	93.3%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	93.3%		94.2%

②サービス提供補助金や助成金の確保

<目標>

- ・東京都からのサービス提供補助金、共同募金会からの助成金は運営・経営上、大きな財源の一つとなることから、補助金の適正運用や新規での加算や助成金の申請により確保を図る。

<結果>

- ・共同募金会の助成金(B 配分)を申請申請。用途は物品購入(ワイヤレスアンプ)とし、180,000 円の配分が決定した。
- ・費用補助金の加算として①民間施設給与等改善費管理費特別加算(子ども食堂の実施)、②施設機能強化推進費加算(宿直員雇用による総合防災対策強化)、を申請し補助金の増額に繋がった。なお、入所者処遇特別加算(60 歳以上の職員雇用)は対象者不在のため申請はせず。
①補助金額の 1%相当(約 300,000 円)②450,000 円

④災害対策、避難訓練

<目標>

- ・消防法に基づき、消防署や地域と連携し毎年2回、地震や火災、水害発生を想定した総合防災訓練を行い、また施設内の消防設備の把握や防災計画を周知し、迅速かつ的確な救助や、ご入居者が円滑に避難できるように自主避難訓練を年2回行う。避難経路の確保とご入居者への周知徹底を図り、防災設備業者(年2回)と防火管理者(毎月1回)消防設備点検を行い、設備や環境に不備が生じないように管理する。

<結果>

表 19 実施した防災訓練及び自主避難訓練

日程	訓練項目	内容	参加人数
5月26日	総合防災訓練	夜間火災想定	入居者 16 名 職員 7 名
9月8日	自主避難訓練	水害想定訓練	入居者 18 名 デイ利用者 30 名 職員 12 名
10月20日	総合避難訓練	日中火災想定	入居者 17 名 職員 12 名
3月22日	自主避難訓練	地震想定訓練	入居者 18 名 職員 4 名

<目標>

- ・火災や水害、震災等に備え、消防計画に則り職員の自主防災組織や、ご入居者の避難計画の見直しやマニュアルを作成し運用する。また災害時 BCP を作成し、中長期的な事業計画を立て災害時の初動対応やライフライン復旧までの指針として活用する。

<結果>

- ・令和6年3月末日までにBCPの整備が義務付けられており、定期的に会議を行いながら現在作成中。

<目標>

- ・自然災害により電気や食料などのライフラインの供給ができなくなることが想定されるため、非常備蓄物に関して定期的な確認及び入れ替えを行い、50名分3日分の水分・食糧を常時備蓄し、献立表を立てるなど災害時に対応ができるよう整備を図る。

<結果>

- ・賞味期限の近い非常食の入れ替えを行い災害時の備えを整備した。

⑤委員会

<目標>

- ・入居者の生命・身体の安全及び健康保持を目的に各種委員会を開催し、安全配慮義務の遵守に努める。

<結果>

表20 令和4年度 法人内委員会

日程	委員会名	内容
4月28日	第1回 感染症委員会	・年間スケジュール ・新型コロナウイルスについて
4月28日	第1回 事故予防委員会	・今後の活動内容 ・事故報告書の判断基準及び通知の確認
4月28日	第1回 身体的拘束適正化検討委員会	・委員会と指針の確認 ・今後のスケジュール
7月7日	第2回 感染症委員会	・夏に向けての感染症対策
11月13日	第3回 感染症委員会	・新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症対策
7月7日	第2回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・研修内容の検討
9月23日	第2回 事故予防委員会	・事故報告書の検証
11月13日	第3回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・研修内容の検討
1月15日	第4回 感染症委員会	・感染症の発生状況及び対策の検討
2月12日	第3回 事故予防委員会	・事故報告書の検証
1月15日	第4回 身体的拘束適正化検討委員会	・報告の集計と分析 ・令和4年度振り返り

⑥内部監査などによるレセプト点検、内部牽制機能強化

<目標>

- ・健全な運営・経営を行うために、運営基準等に則り運営や請求のレセプト点検を行うとともに職員の主従体制による業務執行により内部牽制機能の強化を図る。

<結果>

- ・作業に対して複数の担当者を配置し、レセプト点検を含め内部牽制を行った。

⑦ケアハウス会議

<目標>

- ・隔月1回生活相談員・介護職員・用務員・事務員を招集し、ご入居者へ状況把握事項や、利用者処遇、行事内容、環境面についての協議・検討し、サービスの向上を目指す。

<結果>

- ・4月、6月、8月、11月、3月に開催。

部署内の情報及び課題、入居者処遇等について共有・協議を行いサービスの質の向上に繋がるよう努めた。

⑧地域包括ケアシステム構築への取組み

<目標>

- ・入居者がいつまでも安心して住み慣れた矢野口地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続け暮らすことができるように、施設が地域の問題を捉え、地域の問題を地域住民である入居者の問題として介入していく。

<結果>

- ・つながろう矢野口会議に施設代表として施設長が参加(4月、6月)し、地域における課題について協議及び意見交換を行った。11/5 矢野口フォーラムへ施設長と入居者3名が参加した。
- ・矢野口地区でのフードバンクの取組みへ、当法人代表として施設長が参画している。やのくち子ども食堂と絡めた形で協働中。

2. 老人デイサービスセンター ハーモニー松葉

《重点的取り組み》

(1) 利用者処遇

① 個別ケアの提供

<目標>

- ・ご利用者の希望やニーズ、ご家族の意向、身体状況を把握する。生活相談員または介護職員がICF（国際生活機能分類）に基づき評価し、ケアプランに沿いながら、ご利用者一人ひとりに合ったサービスを提供する。ご利用者の状態変化を定期的に評価し、状態に見合ったサービスへ変えていく。「活動」や「参加」を促せるようなプログラムにしていく。

<結果>

- ・個別ケアを実践するために介護職員が、通所介護計画書の情報から、ご利用者の体の状態や好みを細かく把握することで、個別ケアを提供する意識が向上した。
- ・新型コロナウイルス流行禍で、外出プログラムなどは感染予防に配慮しながら行った。
- ・ご利用者から人気があるプログラムやグループ活動の提供に努めた。

② 自立支援を促す介助

<目標>

- ・ご利用者の身体機能を評価し、過介助にならないような介助を行う。必要な方へ必要な介助を心がけ、ご家族の介護負担の軽減を目指す。

<結果>

- ・ご利用者の身体機能を評価し、過介助にならないような介助を行った。
- ・必要な方へ必要な介助を心がけ、ご家族の介護負担の軽減を目指し取り組んだ。
- ・ご利用者、ご家族への調査でも82.5%が介護負担の軽減につながっているとの評価であった。

③ 介護予防体操

<目標>

- ・ご利用者に合わせた運動プログラムを基本として、柔軟性と筋力向上トレーニング、口腔体操を中心とした運動プログラムを実施する。プログラムにラジオ体操第一を必ず取り入れ、ある程度一定量の運動が行えるよう口腔体操も含め取り組んでいく。

<結果>

- ・午前中を中心に運動プログラムを提供し、ラジオ体操を取り入れ、ある程度一定量の運動が行えるよう努めた。
- ・介護職員によって体操の提供時間がまばらだった為、介護予防体操のマニュアルを作成し40分間は必ず実施するよう意識統一して対応した。

④ レクリエーション

I) グループ活動

<目標>

- ・個々の興味・関心に近いレクリエーションを利用者が自ら選択し、自己決定できるようグループ活動を行う。そのために職員は利用者の興味・関心を把握し、個々の目的に合わせた活動の提供を行う。他の活動についても同様に実施していき、ご利用者の要望に合わせて活動内容を見直し臨機応変に対応していく。

<結果>

- ・計画書様式を変更したことで、ご利用者・ご家族からの意向の聴取に漏れがなくなり、希望や関心に沿ったレクリエーションを勧めることができた。
- ・利用者の個々の興味・関心に近いレクリエーションを自己決定してもらおう。職員は利用者の興味・関心を把握する。

表21 グループ活動内容

グループ名	曜日	頻度	実施内容	参加人数
運動	月	週1回	天候によって施設外周や近隣公園をウォーキング・雨天の場合、施設内でボール体操や廊下をウォーキング・第3週月曜日は稲城市内の公園に出かけウォーキングを実施	1日平均6.7名 延80名
アート	火	隔週	主のプログラムが手工芸の場合はに参加しており、月に2回のペースでアートグループを実施。12月以降は活動休止。	1日平均8.6名 延77名
玩具	月 水 土	週3回	麻雀を中心にメンバーが揃う日は実施	1日平均4.3名 延600名
美容・整容	木	週1回	参加人数を縮小して密にならないよう、お話を中心にメイク・フェイスパック・爪切り・ネイルを行った。メイク道具は都度消毒を行ないながら実施。	1日平均6.6名 延203名
園芸	金	隔週	テーブル花の作成やお庭に季節のお花や野菜をプランターに植えて成長を楽しむ。草むしりや水やりの実施。	1日平均4.4名 延160名

II) 季節行事・外出活動等

<目標>

- ・利用者が1年間飽きずに楽しめるように季節感にちなんだ行事を定期的に行う

<結果>

表22 実施した季節行事

実施日	内容	参加人数
4月1～4日 (3日間)	お花見弁当	1日平均25名 延74名
5月4～6日 (3日間)	こいのぼり見学(上谷戸大橋)	1日平均25名 延74名
6月13・16・22日 (3日間)	紫陽花バスツアー(町田市野津田公園)	1日平均25名 延74名
8月17・25・26日 (3日間)	デイサービス縁日	1日平均28名 延83名
9月19日	敬老会(職員によるよさこいソーラン節の披露、ご利用者全員にお茶のプレゼントを配布)	28名
10月14日	秋の味覚祭(昼食に秋刀魚と芋煮汁を提供)	27名
11月16～18日 (3日間)	紅葉バスツアー(多摩市メタセコイア通り)	1日平均25名 延75名
12月22～24日 (3日間)	クリスマス会(ビンゴ大会、職員によるきつねダンスを披露、ボラによるクリスマスコンサートとフラダンス、ご利用者全員にプレゼントで靴下を配布)	1日平均28名 延84名
1月4～6日 (3日間)	新年の挨拶会、書初め、福笑い	1日平均27名 延80名
1月4～10日 (6日間)	初詣(穴澤天神社)	1日平均12名 延71名
2月23～25日 (3日間)	梅見ツアー(稲城市坂浜小田良地区)	1日平均21名 延62名
3月24・27・29日 (3日間)	お花見ドライブ(稲城市内多摩川、三沢川沿い)	1日平均 延70名

※ 予定していた餅つき大会、秋の戸外活動・第7小学生交流会・稲城市民祭作品展示は新型コロナウイルス感染予防の観点から実施せず

<目標>

- ・ 外食ツアー(1日6名程度 第3週6日間×年4回)の再開。
コロナ禍での外食ツアーのやり方を考え直す。年4回3か月に1度、6日間をかけ1日6名程度のご利用者と職員2名、運転手1名の少人数で行っていく。

<結果>

- ・ 新型コロナウイルス蔓延防止により、実施できなかった。

<目標>

- ・地元のおやつを提供(毎月1回)。

<結果>

- ・毎月、稲城市のお店で購入したご当地おやつを提供し、ご利用者の満足度を高めた。
- ・クレープ移動販売も毎月実施し、クレープをご利用者におやつとして提供した。

<目標>

- ・ヘアカット希望者への対応

数名のご利用者家族から理髪のご要望があり、認知症や足の不自由な方を美容院に連れて行くのが大変という声が聞かれている。理髪 서비스가受けられれば振替利用やスポット利用に繋がり、満足度も上がる。

<結果>

- ・実施について協議を重ねたが、サービス提供時間の兼ね合いや提供体制の確立などが調整できなかったことから実施には至らなかった。

Ⅲ) 足浴サービス

<目標>

- ・足浴は多い日で1日5名ほど昼休みに実施している。昼休みは職員が手薄になる時間で利用者の見守りも不十分になる為セラミック足浴機を導入し見守りの強化と利用者の満足度を上げる。

<結果>

- ・令和4年6月にセラミックボールの足温器を導入し、1日平均4名に実施。以前の足浴と比較し、衛生的かつ職員の業務負担の軽減にもつながりご利用者の満足度も向上した。

⑤ 送迎サービス

<目標>

- ・朝と帰りの運転手ミーティングを行い、当日の運行の確認と介護職員を交えたミーティングで利用者情報を共有して、きめ細やかで安心・安全なサービスを提供する。スポット利用等の臨時的な受け入れに柔軟に対応する。運転手との情報共有のため運転手会議を隔月で実施する。

<結果>

- ・運転手とのミーティングを毎朝開催し、当日の運行状況やご利用者の出欠を確認することで安心・安全な運転サービスの提供に努めた。
- ・令和4年度のみで車両事故7件(自損含む)と事故が多かった。
- ・運転手会議は令和4年7月、10月の2回実施したが、隔月の実施に至らなかった。
- ・ご利用者満足度調査では、送迎に関する満足度(安全性、時刻)は72.5%であった。

⑥ 食事サービス

<目標>

- ・食事サービスは、利用者にとって楽しみなサービスの一つであり、競合デイと比較されるサービスである。毎日の検食でスタッフの意見を吸い上げ、給食委託業者との月 1 回の食事会議で振り返りと今後について話し合う。

<結果>

- ・毎月 1 回の食事会議に正職員が出席、もしくはご利用者からの意見を集約し提案することで、食事サービスの改善に努めた。
- ・食材料費の物価高騰の煽りを受けたが、イベント食の実施など食事サービスの質の維持に努めた。
- ・ご利用者満足度調査で、ご利用者の食事のメニューに対する満足度は 60%であり、盛り付け、おやつについては 52.5%であった。
- ・食事サービスについては、今後のご利用者の満足度の向上を図るための優先的な課題と認識した。

(2) 運営

① 家族会の実施

<目標>

- ・年 1 回職員と利用者家族との意見交換会を実施する。デイサービスの運営状況報告や利用状況が分かるように活動状況のビデオ上映会等を行い、家族への運営面の理解及び家族に安心してもらう。

<結果>

- ・新型コロナウイルスの影響や蔓延防止のため実施できなかった。

②職員会議

<目標>

・法人運営会議

四半期に 1 回及び必要時に臨時で開催し、法人全体の課題やその解決策を管理層で協議し方針を決定する。部門ごとに定めた目標値への達成度について報告し合い、共有し、解決策を協議する。感染症や自然災害等の緊急時については、臨時で開催し、各部門の行動について共有し決定する。協議内容は各部門で周知し、方針に従って各部門での行動につなげていく。

・職員会議、職員全体会議

毎月 1 回ケアハウス・デイサービス職員にて施設及び各部署が行うサービス内容や改善点、周知事項について確認及び協議を行う。

・デイ運営会議の開催

毎月デイ運営会議を開催し、正職員・嘱託職員でデイサービスの課題、解決方法について

協議していく。デイ運営会議で事業目標から定量的な目標値を定め、達成度を法人運営会議で報告する。協議した内容について毎月のデイミーティングで情報共有、更なる協議をしていく。

<結果>

- 法人運営会議に3か月に1度正職員が参加し、事業目標に沿って運営報告を行い、営業力やサービス力の向上に努めた。
- 職員会議や職員全体会議に参加し、正職員や非常勤職員共に施設内研修や運営や経営などを周知し、確認、協議を行った。
- 毎月第2土曜日にデイミーティングを実施。基本全員が参加し運営報告・利用者の情報の共有を行った。ヒヤリハット・事故報告の検証や、ケーススタディを通じて利用者への対応方法の統一を図った。

② 人材育成・サービスの質の均一化

<目標>

- プリセプター制度

新人看護・介護職員（プリセプティ）1人に対して決められた経験のある先輩看護・介護職員（プリセプター）がマンツーマン（同じ業務を一緒に行う）で、ある一定期間新人研修を担当する。新人のペースに合わせて、新人自らが主体的に学習するようプリセプターが関わる。ご利用者の看護・ケアを新人看護・介護職員とともに提供しながら、仕事を通じてアセスメント、介護技術、対人関係、医療や介護サービスを提供する仕組み、看護・介護職としての自己管理、就業諸規則など広範囲にわたって手本を示し、OJT 指導計画に沿って指導を行っていく。

<結果>

- 新人職員には正職の介護職員がプリセプターとして1年間担当した。
- 年間スケジュールに沿って業務終了後、チェックシートを用いて業務の習得・遂行度合いを確認し指導・助言・相談を行った。
- 1・3・6ヶ月めで面談を行い面談結果に基づいて改善できるように助言・指導を行い1年間でプリセプター制度を終了とする。その後も相談役として新人職員から随時相談しやすい環境を整え、新人育成に努めた。
- 令和4年度の12月まではプリセプター制度を実施していたが、職員の入退職が重なり、職員体制の変更により、以降はOJT のみの実施となった。

<目標>

- 外部、内部研修

職員のサービスの質の向上を目的に年に1度以上外部研修に参加する。介護技術や対人援助技術等デイサービスで必要なスキルを習得する。

- 伝達講習

職員のサービスの質の向上のため、外部研修を受けた場合、研修内容をデイミーティング

内で他の職員へ伝達講習し、多職種の職員間で情報共有する。新型コロナウイルス感染状況により研修の受講を実施していく。ただし、職員の負担のないように業務時間内で実施できるようにする。

<結果>

- ・新型コロナウイルスの影響や蔓延防止や職員の入退職が重なり、外部研修の参加や伝達講習の実施が困難であった。

<目標>

- ・資格取得支援

常勤職員・非常勤職員にかかわらず、意欲がある職員については、介護福祉士や介護支援専門員、社会福祉士等の資格取得支援を積極的に行う

<結果>

- ・無資格で入職した介護職員初任者研修受講者 1 名に、資格取得支援費の支給を行った。

③ 組織

<目標>

- ・非常勤職員の業務の責任の明確化

常勤職員が非常勤職員へ依頼している業務に対して、きめ細やかなフォローを行う。非常勤職員は依頼されている業務の執行責任はあるが、業務の結果責任は常勤職員にあることを明確にする。

<結果>

- ・正職員の意識やマネジメント力の向上に努め、非常勤職員への指導や教育、フォローを行い、信頼度を高めることに尽力した。

<目標>

- ・働きやすい職場づくり

どんな立場の職員でも発言できる心理的安全性がある風土にする。職員の誰もがやりがいがあり、長く勤めたいと思える職員への配慮がある職場環境にする。

<結果>

- ・働きやすい福祉の職場宣言事業所として、職員の意見や提案を尊重し、労働基準法に則り、処遇改善の充実など、風通しの良い職場環境の構築と離職防止につながるよう努めた。

<目標>

- ・チームアプローチ

職員全員で情報共有ができて、職員同士でフォローしあえるチームで事業の目標を達成できるアプローチを目指す。

<結果>

- ・ご利用者のケアについて、多職種間で情報共有、連携が取れるようミーティングやカンフ

アレンスで協議し、統一したアプローチが実践できるよう努めた。

- ・LINE WORKS を活用し、デイサービスの職員間でご利用者の情報や対応について、タイムリーに情報共有し、周知に努めた。

④ 新しい試みの検討

<目標>

- ・新型コロナウイルス感染症拡大や福祉ニーズの変化による介護保険法改正等で外部環境の変化の影響を運営面で大きく受ける。外部環境の変化に伴って運営は変化していく必要があるため、新しい試みを絶えず検討していく。

<結果>

- ・新型コロナウイルス流行禍や物価高による影響を考慮し、稼働率の向上や経営改善を意識し、運営やサービス提供に影響がないように職員全体で努めていった。
- ・介護の ICT 化が進む中、介護記録ソフトを導入し、記録の簡略化や業務改善につながるよう運用を開始した。

⑤ ボランティアの受け入れ

<目標>

- ・新型コロナウイルス感染予防の観点から令和3年度10月までは受け入れを中止していたが、11月よりお茶配膳のボランティアの受け入れを再開し12月より午後活動のボランティアの受け入れを再開しましたが、感染状況により受け入れの検討をしていく。

<結果>

- ・感染症委員会を中心に協議しながら、5類への移行に向け、ボランティアの受け入れ拡大を検討した。

⑥ 省エネの励行

<目標>

- ・電気・水道・ガスの使用について省エネを常に意識し、無駄のないように心がけることでコスト削減につなげる。

<結果>

- ・令和4年10月からの電気料金の値上げや、物価高やガソリン代の高騰など、運営、経営に大きな影響を与えたことから、稼働率の向上や送迎の適正化などに努めた。

⑦ 年間利用者数の目標値

<目標>

- ・適正な運営・経営を行い、利用者のサービスを向上させるためには、一定の利用者数の確保が必要である。そのため、以下の目標値を設定する。

<結果>

表23 年間利用者数の目標値と実績

	1日平均延利用者数	年間延利用者数	備考
目標値	26名	8,008名	※ 年間営業日数は308日で試算
実績	27.3名	8,280名	※ 年間営業日数はコロナと大雪による休業で303日
差	1.3名	272名	

- 令和4年度目標値の年間延利用者数 8,008名に対して、実績値は272名多い8,280名であった。
- 1日平均延利用者数 26名に対して、実績値は1.3名多い27.3名であった。
- 令和3年度の1日平均23.5名より大幅にご利用者が増え、コロナ前の水準まで増加した。

表24 令和4年度利用状況

(令和5年3月31日現在)

月	実利用者数	延利用者数	平均利用者数	平均介護度	新規利用者 (介護度変更含む)	終了利用者 (介護度変更含む)
4	82	694	27.0	1.5	2	4
5	83	680	26.5	1.5	8	2
6	87	683	26.6	1.5	6	6
7	86	698	27.2	1.5	3	2
8	87	719	27.0	1.5	4	0
9	89	731	28.8	1.6	4	6
10	90	713	28.0	1.5	5	4
11	88	707	27.8	1.5	2	4
12	87	653	27.9	1.4	0	7
1	87	661	28.0	1.5	2	2
2	84	614	27.2	1.5	1	2
3	83	626	25.8	1.5	1	0
合計	-	8,280	27.3	1.5	39	39

⑧ 地域貢献

<目標>

- 地域貢献事業であるやのくち子ども食堂やフードバンクへ可能な範囲で関わっていく。
- 稲城市民祭への展示で作品を通じた地域交流を行っていく。
- 小学生や保育園児と利用者との交流会で多世代交流を行い、将来福祉に関心がもてる人材を地域の中で育てる。

<結果>

- 新型コロナウイルス流行禍により、秋の戸外活動・第7小学生交流会・稲城市民祭作品展示は参加できなかったが、第二文化センター祭りへの作品出展など出来る限り参加を行った。
- 新型コロナウイルス2類から5類への移行を踏まえ、次年度行う取り組みを協議、検討した。
- 法人が行なう地域貢献事業である子ども食堂やフードバンクに可能な限り参画した。

3. 介護予防体操教室事業

新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応を稲城市と協議した結果、感染状況を踏まえ今年度の事業は中止となった。デイルームの場所の提供や講師とメンバーとの連絡調整で支援している「サフラン会」の自主グループ活動についても、感染状況を踏まえて中止とした。

以上